



たけだ正光県議会レポート

発行 / 自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉県中央区市場町2番13号 電話043(227)7411

市野谷の森保全を強調

待機児童の解消求めて質疑



通算17度目の一般質問に立った武田県議

流山市選出で、県議会の若手のホープと見なされている武田正光(たけだ・まさみつ)県議は、2月定例会議会で今任期最後の一般質問に登壇しました。今回は、市民が自然と触れ合う場として親しんでいる、オオタカが営巣する市野谷の森の緑地保全問題などを取り上げ、未整備区域の早期着手を要望しました。また、流山市懸案の(仮称)三郷流山橋の工事については、1日も早く完成するよう、重ねて強く訴えました。その他、待機児童問題、地域の消費喚起と経済対策など、武田県議の主な質疑を特集しました。

武田議員 流山市にある市野谷の森、通称おたかの森については、平成3年度、4年度に行われた調査でオオタカの営巣が確認され、

平成7年度に行われた「千葉県環境会議」の提言を踏まえ、平成12年1月に約18.5ヘクタールが都市公園として決定されました。

平成19年度には、このうち約3.7ヘクタールが事業化され、現在整備が進められているところですが、この間に周辺の市街地整備が進み、また本年4月には計画地に隣接して、小中学校併設校、その名も「おたかの森小・中学校」が開校します。

このように、市野谷の森、通称おたかの森は、地区のシンボルとなっており、その保全を求める市民の声がより一層高まっているところです。

しかし、おたかの森小・中学校に隣接する区域を含む14.8ヘクタールについては、まだ事業化されていません。面積も大きく、時間がかかると推察されますが、地元では公園としての用途以外に転用してしまうのではないかと懸念する声が上がっています。

そこで伺います。市野谷の森公園において、事業化されていない区域の整備に関する県の考え方はどうか。

都市整備局長 市野谷の森公園は、住民が身近な自然と触れ合う場として、緑地の保全・利用を図っていくという基本理念のもと、約18.5ヘクタールの区域を平成12年1月に都市計画決定いたしました。

現在、このうち3.7ヘクタールの区域について整備を進めているところです。

残る区域約14.8ヘクタールについても、緑地の保全・利用を図られるよう、事業の進め方などを地元流山市等と協議してまいりたいと考えています。

2月県議会一般質問に登壇

「子ども子育て支援制度」がいよいよ始まります。この新制度は、「すべての子どもたちが笑顔で成長していくために、すべての家庭が安心して子育てでき、育てる喜びを感じられるために」、消費増収分を活用して、子育てを社会全体で支えようとするものです。

また、幼稚園と保育所の良いところを一つにした「認定こども園」の普及を図るとともに、提供する保育の場を増やし、待機児童を減らして、子育てしやすい、働きやすい社会を目指しています。

しかし、県内では依然として保育所への入所を待っているご家庭が非常に多い状況にあり、待機児童の解消は極めて重要な課題となっております。

武田議員 本年4月から「子ども子育て支援制度」がいよいよ始まります。この新制度は、「すべての子どもたちが笑顔で成長していくために、すべての家庭が安心して子育てでき、育てる喜びを感じられるために」、消費増収分を活用して、子育てを社会全体で支えようとするものです。

また、幼稚園と保育所の良いところを一つにした「認定こども園」の普及を図るとともに、提供する保育の場を増やし、待機児童を減らして、子育てしやすい、働きやすい社会を目指しています。

しかし、県内では依然として保育所への入所を待っているご家庭が非常に多い状況にあり、待機児童の解消は極めて重要な課題となっております。

健康福祉部長 本県の保育所待機児童数は、平成26年10月1日時点で、政令市中核市を含め、県内全体で2626人となっております。

待機児童については、平成25年10月1日時点の2796人に比べ170人減少したものの、都市部を中心に依然高い水準にあります。

県議会で地域の声を代弁へ

企業が地で雇用の創出を!

三郷流山橋の早期完成を要望

17度目の質問に登壇



メモを手に自席から再質問する武田県議

武田議員 流山市周辺道路の慢性的な渋滞を解決するために、(仮称)三郷流山橋の早期完成が不可欠です。今では、いつ橋が完成するのかと地元も期待が高まっています。(仮称)三郷流山橋の進捗状況と今後の見通しはどうか。

県土整備部長 (仮称)三郷流山橋は、市街化の進展が著しい東葛飾地域と埼玉県東部地域を結ぶ幹線道路であり、県北西部の発展や流山橋の交通混雑の緩和に大きく寄与するものと考

えています。今年度から、埼玉県とともに江戸川渡河部を含む、全長約2キロについて事業着手しており、このうち、千葉県側取付部については、本県が整備を実施しているところです。

現在、用地取得を鋭意進めており、進捗状況は面積ベースで約2割となっています。引き続き、地元流山市の協力を得ながら、用地取得に努めるとともに、来年度には高架区間の橋梁詳細設計を実施する予定です。また、江戸川渡河部を含む埼玉県側の進捗状況につ

いては、埼玉県において今年度、渡河部橋梁の詳細設計などを実施しております。今後とも連携を図りながら、事業の推進に努めてまいります。

武田議員 県道松戸柏線は、道路幅員は約8メートルで、2車線の車道に幅1.5メートルくらいの歩道が片側に整備されています。現状では通行量も多く、近くに向小金小学校があり、通学路にもなっていますが、歩道

通学路の拡幅要望

の幅が十分でないことから、児童の通学や地域住民の生活道路としての安全性の確保が必要と考えています。については、歩行者にとってより安全な道路とするため、県道松戸柏線、向小金地先の拡幅を要望します。

武田議員 県道松戸柏線の幅が十分でないことから、児童の通学や地域住民の生活道路としての安全性の確保が必要と考えています。については、歩行者にとってより安全な道路とするため、県道松戸柏線、向小金地先の拡幅を要望します。

再投資支援を創設

武田議員 若者が生まれ育った地域に定着し、働ける雇用の場の創出は大変重要だと考えます。製造業の国内回帰の動きを、企業立地などに結びつけるべきと思うがどうか。

森田知事 円安の進展による製造業の国内回帰の動きや、市場拡大を求める中小企業の海外展開など、経済のグローバル化が加速する中、千葉県経済の持続性・安定性を確保するため、新たな企業立地や雇用の創出が必要だと認識しています。

すでにこうした動きを踏まえ、県では昨年、県内における事業拡大に対する再投資支援を創設するなど、補助金制度の見直しを行ったところであり、新年度からは、ちば中小企業元気づくり基金等により、海外などへの販路開拓支援について強化を図ることとしています。

今後とも、企業動向にも注視し、私自ら情報発信するとともに、市町村と連携した誘致活動を展開し、地

要望 域経済の振興に努めてまいります。新しい企業立地を増やすことも

プレミアム商品券促進

武田議員 本県経済は、今まさに正念場を迎えており、消費喚起に関する事業が地域経済の活性化に強く結びつき、県内の各地域を支える中小の店舗の隅々までその成果が行き渡るよう、取り組んでいかなければなりません。そこで伺います。地域の消費喚起対策として、県はどのように取り組んでいくのか。

森田知事 国が進める「成長戦略」を確かなものとするためには、低迷する国内消費を喚起していくことが喫緊の課題と認識しており、即効性が期待できる「プレミアム付商品券」の活用促進などで、波及効果が県内隅々にまでいち早く及ぶことが重要だと考えています。

ちろん大切ですが、今ある企業も応援して、経済、雇用の活性化に取り組んでいただきたい。

そこで「プレミアム付商品券」については、県が市町村と連携することで、販売数の拡大による県民の利用促進と、中小企業者専用券割合の引き上げなど、創意工夫による地元消費の拡大を誘発し、県全域の消費拡大につなげていきたいと考えています。

このほか、県独自の「プレミアム付宿泊券」の販売により、地域を周遊する滞在型の観光客の増加を図るとともに、「ふるさと産品ネット販売促進事業」により、各地の名産品などの販売促進に努めてまいります。

要望 経済対策について は、成田空港が立地していることなどから、千葉県の優位性を生かして取り組んでいただきたい。



一般質問に登壇し、地元の課題解決を訴える武田県議